

3
令和2年

心の生涯学習誌
れいろう

令和2年3月1日発行(毎月1日発行) 通巻758号 昭和33年7月3日第三種郵便物認可

THE INSTITUTE OF MORAL LOGIC



〈れいろうカレッジ〉 今月のテーマ

大きな愛をもって 小さないたわりを

山口 権治

日本ピア・サポート学会 理事

池間 理恵

認定NPO法人

アジアチャイルドサポート 東京所長

〈思春期の処方箋〉

子どもたちよ、キミたちは
なぜ勉強するのか 花まる学習会 大塚剛史

思春期 の処方箋

3



反抗し、秘密を持ち、葛藤で心をヒリヒリさせている思春期の子どもたち。この時期の接し方について悩むすべてのお父さんお母さんに、「花まる学習会」の講師たちが「心の処方箋」をお届けします。



おおつかたけし
大塚剛史

昭和59(1984)年、茨城県生まれ。筑波大学第一学群社会学類卒業。大学時代、主に中学生・高校生の家庭教師を続けていた経験を通じて、子どもたち自身の考える力・やる気をもって物事を楽しむ力が将来の幸せにつながると痛感。花まる中等部部長。子どもたちへの指導にあたるかたわら、年間500件以上行う保護者面談では「子どもの勉強に親はノータッチであること」を一貫して伝え続けている。現場での指導をもとに、中学生へのアドバイスを得意とし、子どもたちから絶大な信頼を得ている。

楽なほうに流されやすい思春期。 なぜ勉強するのか、自分の頭で 考える機会を奪わずに。

通している事実として「受け身で育つてきた」ということが挙げられます。

学校、塾、家庭……、子どもたちを取りまく環境をつくる大人たちが必要以上に手取り足取りしすぎてしまい、「待つてさえいればなんとかなる」という意識が子どもたちに刷り込まれているのです。その意識はなかなか変わりません。社会に出て、受け身でいられなくなつたとき、初めて「あれ? おかしいぞ?」と気がつくのです。

ちにいとも簡単に負けたりもするからです。

例えば、彼らは定期テスト対策の勉強をやらなくてはならないと分かっています。「テスト勉強なんてどうでもいい」と心の底から思っている子どもに出会つたことは一度もありません(そんな雰囲気を出す子はいますが、そういうボーナスをとつているだけなのです)。

ただ、ともすれば楽なほうに行きたくなるとそういう気持ちが強くなりますが。自ら「次の日曜は自習に来ます!」と約束したはずが来ない、ということになるとよく起ります。しかし、そんなときこそ、彼らが自分に真正面から向き合い考へるべきとき、つまり変化するための重要な瞬間なのです。

ですから私は、自分の頭で物事が考えられるようになる思春期にこそ、「受け身ではなく、自分の頭で考え、行動する」ように促すことが重要だと考えています。そうすることで「自分のことは自分でやろう」という意識が芽生え始めるのです。そして、これこそが勉強をする意味なのです。

同時に、この時期の子どもたちはおもしろいなあと感じています。なぜなら彼らは「やりたくない」という気持

変化のときは 気持ちに負けた瞬間

ですから私は、自分の頭で物事が考えられるようになる思春期にこそ、「受け身ではなく、自分の頭で考え、行動する」ように促すことが重要だと考えています。そうすることで「自分のことは自分でやろう」という意識が芽生え始めるのです。そして、これこそが勉強をする意味なのです。

同時に、この時期の子どもたちはおもしろいなあと感じています。なぜなら彼らは「やりたくない」という気持

だけです。ではどうしたらよいのか。彼らに対するわれわれ大人の重要な役割は、「自習に来なかつた」という事実を彼ら自身に考えさせることです。そして「その事実に向き合つた彼らが、次にどう行動するか」を見守ることでしか、本当の成長はないようになります。

子どもたちの成長を願うあまり、「ちゃんとさせないといけない」という考えが先行してしまい、子どもたちの「考える機会」を奪つてしまいがちです。子どもは失敗をして、寄り道をしながら成長する生き物です。大人の都合や理屈で彼らを指導すると、悪気はないのに気づけば「受け身」な大人が完成してしまいます。

われわれ大人の願いは、子どもたちに幸せになつてほしい、ただそれだけです。そのためになくてはならないのが、「自ら考え、行動する力」です。人生の先達として道は示しつつ、彼らの成長を信じ、一步引いた位置から見守つてみてはいかがでしょうか。

道を示し信じて見守る

約束をやぶつた子に対して「なんで来なかつた!」「次は絶対に来なさい!」と、来なかつたことを咎め、来ることを強制することは簡単です。ただ、それでは彼らを「受け身」にしてしまう



なぜ勉強するのか

「キミたちはなぜ勉強するのか」

初めて受け持つ生徒に、必ずこう尋ねます。たいてい、「テストがあるから」「そう決まつているから」などという答えが返ります。しかし「勉強をする意味」とは、そういうものではないはずです。

最近、毎日を幸せに過ごすことのできない人たちが増えているように感じます。例えば「世界幸福度ランキング」の日本の順位は年々下がっていますし、「子供・若者白書」(内閣府)での若者の自己肯定感の低さは、一つの顕著な事実でしょう。

もちろんこういった尺度だけで幸せを測ることはできませんが、「なんのために生きているのか」「この仕事はやりたいことなのか」「幸せになれないのはなぜなのか」と悩む人たちに出会うことが多くなりました。人によって悩みはそれぞれですが、実はその根本には同じ原因が隠れているのです。それは「自分の頭で考え、行動できない」ということです。そして、その人たちと共に